

つなぐれ和泉っ子

～人と社会と未来の自分～

和泉

2 月号



<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/izumi/>

ダイバーシティ～多様性の時代～

校長 中澤 道則

近年、“ダイバーシティ”という言葉をよく聞きます。直訳すれば「多様性」。ある集団に様々な属性をもった人たちが集まった状態のことです。元来、人種差別の問題等を語る時に使われていた言葉ですが、近年は企業等において、均質な集団ではなく多様な属性をもった人が集まることで生産性が高まり、新たな発想が生まれていく…というような場合に多く使われているようです。

私はその対極にあるのが「差別」や「いじめ」だと思っています。ある集団におけるマジョリティがマイノリティを排除し攻撃する行為です。しかし、その母集団が変わればマジョリティも変わります。日本の中では日本人がマジョリティですが、世界基準で考えればマイノリティです（ちなみに日本語を母語とする人口は世界の人口の2%程度だとも言われています）。今、多様性の時代においては異なる人種、文化の垣根を超え、ただ一方的に「受け入れる」のではなく、「認め合い、受け入れ合う心」こそ求められているのです。

さて、昨年の学校便り2月号でも触れたように2月は“Pink shirt day 月間”です。“Pink shirt day”や12月の「いじめ防止強化月間」等の取り組みを始めとして、様々ないじめ防止の取組が進められ、そして社会的にこんなにも問題視されているにもかかわらず、いじめは右の表のように一向に減少する気配がありません。逆にこの10年間でいじめの認知件数は5倍にも増えています。私はその要因の一つがこの「違いを認めない文化」にあるのだと思っています。これからの社会に生きる子ども達に、ぜひ「違いを認め合える心」を育てていきたいと思っています。

年度別いじめの認知件数

(小学校 文部科学省調べ R6.10.31)

H25	5 倍	R5
118748		588930

令和7年がスタートしてはや1カ月。時は駆け足で過ぎていきます。今年度も残り2か月、実質は1カ半月といったところでしょうか。1～5年生はあと34回、6年生は30回学校に来ると春休みです。残り少ない日々を「誰もが、安心して、豊かに」学校生活を送ることができるように、一人ひとりが「自分とは違う他者」を大切に、違いを認め合い、受け入れ合いながら、1日1日を大切に過ごして欲しいと思います。それこそが4月からの新たな1歩を充実した気持ちで踏み出すために大切なことなのだと思います。2月も教職員一同、1年間の締めくくりを受けて、子ども達が安心して豊かに学校生活を送ることができるよう、精一杯、努めてまいります。ますます寒さが厳しくなる2月。保護者、地域の皆様におかれましてはくれぐれもご自愛ください。2月も本校の教育活動のより一層の充実に向けてご理解、ご支援を賜りますよう、お願いいたします。

☆☆☆☆ お知らせ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

令和4年度から本校で家庭科専科、個別支援学級担当として勤務していた玉置胡桃教諭が、2月24日をもって本校を退職し、かねてより希望していた栄養士として他校で勤務することとなりました。3年間にわたりご支援ご協力、ありがとうございました。なお、家庭科の単元については2月末までに終わるよう、進めております。以上、よろしくご承知おきください。